



# いま、 中学生が 訴えたいこと

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。町非行防止と青少年健全育成町民大会で「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表がありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ 文化センター ☎83-9567



## 「ネット世界の住人」

北部中3年 尾方 彩海さん

近年、世界は情報化社会を迎え、毎日とてつもない量の情報が世界中を行き来している。最新の技術によって生み出された情報機器を使えば、誰でも簡単に友達や家族のみならず世界中・世界中の人々とコミュニケーションを交わせる。

また、インターネットは、医療現場での活用やネットショッピングなど社会的弱者を助けることにつながったり、学校教育の幅が広がったりするなど、どんな人、世代にも良い面がたくさんある。しかし反対に、私たち若者に悪影響を及ぼしている面もあるのではないかと。

今若者の間で、行き過ぎた承認欲求により起こされる、迷惑行為が問題になっていることを皆さんは知っているだろうか。今や誰もが持つようになったスマートフォン。スマートフォンにはアプリをインストールし、自由に使用することができるが、その中でも、ツイッター、インスタグラム、ライン、フェイスブックなどは、若者に絶大な人気がある。それらの投稿は主に写真や文章で行われ、自分や相手の顔は見ることでできない。また、直接出会ったことのない、不特定多数の人とも繋がるので、背伸びした自分を発信でき

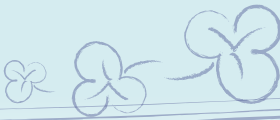
る。投稿が大勢から「いいね!」や「リツイート」「ハート」をもらうことで満足感を得たり「フォロワー」が増えて人気になったりすることもできる。そうするうちに、その数字にとらわれて承認欲求が抑えられなくなってしまう、正常な判断ができない、いわば盲目状態になってしまう若者が増えていくようにだ。

私はネットニュース・テレビで「インスタ映えによる大量の食品ロス」という問題を見た。いわゆる「映える」食べ物写真を撮りSNSにアップし、その食べ物は食わずに捨ててしまふ、というものだった。私はこの問題を知ったとき、驚きと同時に怒りと悲しみを覚えた。私は小さい頃から食べ物の大切さ、食べることができるとありがたさを両親から教えられながら育ててもらった。私たちが毎日、楽しく食事ができているのは、食材となった動植物の命、それらを育ててくださった生産者の方々や、調理をしてくださる人たち

の努力によるものだ。関わってくださる全ての人たちへの感謝を忘れてはいけないと思う。だからこそ、自己中心的な理由で粗末に扱ふことは絶対にあつてはならない行為だと思ふ。

また、公共物を粗末に扱つたり、他人に迷惑をかけたたりする行為ももつてのほかだ。自分の欲求を満たすための感情に任せた行動は、きっと自分の知らないどこかで誰かに迷惑がかかっている。私たち若者も社会の一員として、責任をもつた行動ができるようになるべきだと私は思ふ。

私は、スマートフォンの中で取り繕つた自分を見てもらうよりも、普段は言えない家族への感謝を言葉にして伝えてみたり、家族と美味しい料理を作つて一緒に食べてみたり、現実世界の行動・挑戦や人との関わりを大切にして生きていきたい。ネットの世界にとらわれず、心がネットに住んでしまわないように。



## 「ネット社会に思う」

東浦中3年 有我 朔さん

インターネットという一つの大きなツールには、便利なところや、人々の憧れの対象となるさまざまなコンテンツがあり、一見すると完璧な情報手段といえます。しかし、使い方を誤れば、誰でも簡単に人を傷つけることができちゃったり、

将来の自分の道を閉ざしたりすることにもなります。現在、インターネットの普及により、人々の生活はいろいろな面で変化しています。検索エンジンを使えば知りたいことがすぐに見つかりますし、SNSを通じて見知らぬ人との交流を増やすことも容易になりました。また、写真や動画を投稿すれば反響を呼び、一躍有名になることだってあります。確かに、これはすごいことかもしれませんが、しかし、使い方を一歩間違えれば、たった一つの自分の情報をインターネットに投稿したことで、取り返しがつかなくなり、自分の人生に大きな影を落とすことだってあります。過去に起きたインターネット関連でのトラブルや事件がそれを物語っています。

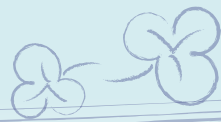
少し前に、飲食店などでの迷惑行為がニュースで大きく取り上げられました。それを行ったのは学生でした。この事例について、いくつかの疑問をもちました。なぜこのような行為をしようと思ったのでしょうか、というのも大いに気になりました。が、一番、疑問に感じたのは、なぜSNSに投稿してしまったのかという点です。インフルエンサーが動画を投稿してたくさんの人に認知されることに憧れたのでしょうか。その真相は本人には分かりませんが、その飲食店には多大な損失を与え、多くの人にも悪影響を及ぼしてしまいました。その場のノリや思いつきで行動しているとしたら、黙って撮影している相手に対しても、なぜ、止めなかつたのかと僕は思いました。また、拡散された動画に対して過度な誹謗中傷を行っていた人間が余りにも多すぎることに驚きました。迷惑行為の中には明らかに犯罪になるものもありますし、そういったことで当事者を批判したくなるのかもしれないですね。しかし、こうした直接的な暴言は決して批判ではなく、その人のものを否定するもので、言葉の暴力だと思います。匿名だから大丈夫、などと

いった理由で誰かをしつこく叩き続けていても、開示請求すれば情報が得られ、訴えることができます。誰か1人が言い始めたら、すぐさま多くの人がそれに同調する、そうして波は増幅し、いつしか指一本で人を自殺にまで追い込んでしまうという事態に陥ります。もともと問題を起こした側と被害者側とで解決すべきことに、インターネットという簡単に介入できてしまうツールによって、正当な意見をもたない第三者が我が物顔して暴言を吐き続けることは、冷静に考えなくともおかしな光景です。

近年、問題となっているインターネット上のトラブルはとどまることをしりません。「デジタル」と「タトゥー」の2つの単語を組み合わせた造語で、「デジタルタトゥー」という言葉があります。これは、インターネット上で公開された自身の投稿が半永久的に残ってしまい、将来の自分に不利益を生んでしまうことを意味します。一度、公開された情報を消すのが困難なことから、タトゥーに例えられたでしょう。これらのデジタルタトゥーを防ぐためには、何が大切になるのでしょうか。

これからの5年後、10年後のネット社会は、もしかすると、法の整備が進み、インターネット上での過激な行為は徹底的に罰せられるようになっていくかもしれません。そうなれば幸いです。でも、そうならなかった場合でも、他人を攻撃したり、自分も被害に遭わなかったりするためにもインターネットの使い方に気を付けなければなりません。インターネットに投稿する前に、これは本当に適切なのか、投稿することによるリスクがどのくらいあるのか、人を傷つけるような表現になっていないかなど、いろいろな視点から想像力を働かせることが大事だと僕は考えています。

どんな時でも一歩踏みとどまることを肝に命じて、インターネットをこれからも使おうと思います。



## 「違うところ」

西部中2年 近藤 美月さん

「赤信号みんなで渡れば怖くない」という言葉があるのを、皆さんは知っていますか。これは約40年前に流行った、ビートたけしさんの言葉です。

皆さん、もし、実際にこのような状況になったときにどうしますか。渡らない、と胸を張って答えられる人は少ないのではないのでしょうか。実際、私も渡ってしまつと思ひます。渡ってしまつ人の中には、急ぎたいから、待つのが面倒くさいから、という理由ではない人もいると思ひます。急いでいるわけでもない人が渡ってしまうのは、周囲から浮くのが嫌だから、何かを言われたくないからという理由なのではないでしょうか。

このように、皆さんも周りに流されて、大してやりたくもなかったことをやったり、やりたかったことをやらなかったりしたこともあると思ひます。

私も前に、クラスの級訓を決めるとき、自分がいいと思つたものがあつたにも関わらず、みんなが手を挙げたものに手を挙げてしまったことがあります。結局、級訓はみんなが手を挙げたものとなりましたが、自分がいいと思つたものに手を挙げればよかったと思ひました。

最近では、SNSも普及し、誰もが簡単に「トレンド」をチェックすることができ、時代になりました。化粧品1つとっても、著名人が使つた、とSNSで投稿したものは多くのユーザーが使用し、多くのユーザーが使用しているという事実により、またユーザーが増えています。私の姉も、SNSの投稿を参考に、化粧品を買っていると話していました。

「ネット依存症」とは、インターネットに依存した状態を言ひます。では、皆さんは本当にネットに少しも依存してないと言ひますか。ネットに書いてあることに従ひすぎていない、と言ひますか。ネットに頼りすぎて、自分を見失つていませんか。

普通になろうとするのではなく、人と意見が違つことが普通だと気づけたらよいのではないのでしょうか。1人ひとりの意見が違つ、そんな当たり前のことを、それぞれが少しでも意識して生活すれば、戦争も、差別も、貧困も、少しずつ解決していくのではないのでしょうか。

皆さんもいろいろな人の意見を大切にして過ごしてはどうでしょうか。多数派の意見も、少数派の意見も、自分の意見も、ほかの人の意見も。いろいろな人の意見を大切にするとよいと思ひます。

